

2023Japan National Team Report ”監督”

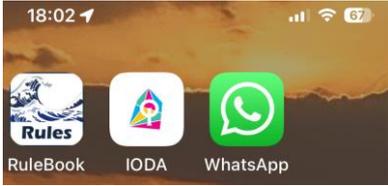
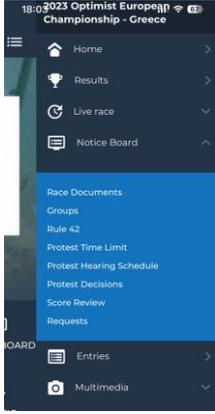
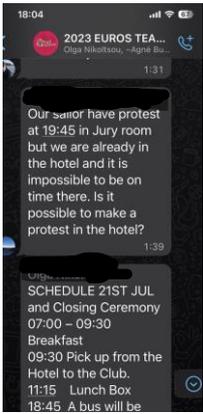


報告者氏名	長堀 裕樹
大会名	2023 Optimist European Championship
開催地	Thessaloniki, Greece
大会期間	2023年7月15日～21日

- 帰国後1ヶ月以内に、チームでまとめた上、JODA 海外派遣担当岡田までメールにて送付して下さい
- JODA 理事会にて確認の後、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
 1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
 2. なるべく詳細に記入して下さい
 3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について
 1. このレポートを補足する資料として必要です(文中に貼り付けて下さい)
 2. 他国OP艇を接見して撮影する際は、必ず相手国の選手、コーチの了解をとって下さい
- 帆走指示書のコピーを添えてください。

<p>現地までの旅程</p>	<p>7/12: 成田 → イスタンブール 7/13: イスタンブール → テッサロニキ 成田発便が2時間遅れたため、イスタンブールで1泊する事になり、13日朝更にテッサロニキ到着。 13日はサポーターチームとともに1泊し、翌14日(大会公式チェックイン)より選手、TL、コーチは大会ホテルに移動。 7/22:9時半に大会公式ホテルにて解船式を実施。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>
<p>旅行代理店</p>	<p>無し。 各自が予約する事で、旅行保険の手配が不要になる(クレジットカードの旅行保険が適用される)という意見があがり、 出発日、便名を決めて予約する事とした。結果的に安いタイミングで各自予約をすることができ、通常より割安な渡航</p>

	費用になったと思う。
渡航費用	航空券一人当たり約22万円。 他、空港からの移動、アーリー期間のホテルとその移動の費用がかかった。
エントリー料	※ <u>実際に支払った通貨で記入して下さい</u> €595(選手1人)×4 + €685(TL/コーチ)×2 = €3750
一人当たりの宿泊費用	大会期間中の宿泊は大会が用意したホテルに泊まる事が必須であり、選手・TL・コーチのエントリー料にその費用も含まれていた。 
その他食料費	サポーターとして来た母たちがお米、そうめんを多く持ってきていたこともあり、現地で購入をお願いしたものは、水やスポーツドリンク等(1日一人2Lの水+スポーツドリンク1L位を用意)が主。他は各自、お菓子等を購入。
チャーター料金	1船期間中€450。アーリーチャーターボートは1日€60。(今回、アーリー申請が遅れたため、アーリー受取をした2日分に対して20%加算をされてしまった) サポートボートは€1600だが、2チームシェアなので€800。香港チームとシェア。
大会本部の対応	大会開始の1ヶ月前よりTL宛にスケジュールの確認等が行われた。時差の関係でレスポンスが1日置きになってしまった為、出発前まで連絡を取っていたが、チャーターボートのアーリー受取なども素早く送金をしていただき、2日前に確定することができた。現地には大会が始まる2日前から入る事が出来たので、子供達はストレスなく、大会の準備をすることができたと思う。 大会開始前より、ハーバーの入れるところの制限が厳しく、ボートヤードには警備員がついていた。 大会はヨットクラブのメンバーが総出でボランティア対応しており、子供たちは計測のお手伝い、船台の受け取り、雑務を行っており、大人より多かった。ボランティアの子供はレース中、TracTracでタクティクスの勉強をする等おこなっていた。   

<p>チームリーダーミーティングの様子、内容</p>	<p>TLMTは初日に1回あったのみで、他はコーチMTのみだった。風が不安定だった為、毎日バスの時間や食事の時間が変わり、その連絡は全てWhatsAppのTLグループ宛に連絡があった。また、NOBはIODAアプリ、リクエストや報告系の同様に100%ペーパーレスであった。MT内容で特筆するものはないが、ホテルやハーバーでの選手行動の注意等の指摘が多かった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>
<p>選手達の様子で気がつけたこと</p>	<p>生活のリズムが狂わないように食事の時間や消灯の時間を指示した。13日現地入りして宿の移動、大会側の時間変更により18時のレーススタートがあったが、朝食の時間は出来る限り変えず、生活のリズムを整える事を心がけた。スタート時間が遅くなった日には素早く片付け、大会バス(20時半等)を待つことなくタクシーでホテルへ帰った。(タクシー1台当たり€15程度だった。距離に対しては安かった)</p> <p>また、出来るだけ物事をシンプルに考えるように指示。例えば、大会会場に持って行く荷物を出来るだけ減らす事、サポーターである母たちがいても洗濯は自分たちで行い、荷物の行き来等が無いように指示をした。</p> <p>後述するが、レースに集中する為、ハチマキやTシャツの交換などはレースの後に行うように指示した。</p> <p>ギリシャは下水環境が悪く、トイレトペーパーを流すことが出来ず、トイレがしやすい環境では無かったので、ちゃんと排泄等は出来ているか選手に声をかけていたが、問題無いようであった。</p>
<p>食事はどうでしたか</p>	<p>現地食は乳製品や塩分の強いものが多かった印象を受けた。ホテルの食事は、フルーツやデザートも充実しており、基本的に選手たちもホテルの食事、ハーバーのランチバックをしっかりと食べていた。出艇が昼すぎであったこともあり、昼には母たちの作るおにぎり、そうめんなどを取り、栄養不足になる事は全くなかった。ホテルの食事は基本的に毎日同じようなものだったので飽きてくる。</p> <p>水は水筒を推奨されたが、高温である事などから、海上選手にはペットボトル。随こいる私は出来る限りウォータースタンドを使っていた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p style="text-align: right;">昼食</p>
<p>セキュリティーなどで気がつけたことはありましたか。</p>	<p>ハーバーは選手、コーチ、TL以外入れないようになっていたので、ある程度はセキュリティーが確保されていた。チャーター艇で借りた物で使用しなかったものなどは一つのバックにまとめ、また個々の必要な予備品などもまとめて保管した。一方で、最終日、チャーター艇で使っていなかったブロック、予備で持ってきていたガラムのロールが行方不明になる等、最後の確認が漏れてしまった事が残念である。</p>

荷物に関して工夫したこと	イスタンブールのトランジットが当初約 1 時間遅延しかかった為、ロストバゲッジに備え、セーリングに必要なものは基本機内持ち込みとした。事前に各航空会社へ長物持ち込みの確認を行い、ターキッシュエアラインは一部チャージを支払うことで持ち込みが出来たので、各選手のセールを一つにまとめ、更に長堀よりグケースをそのセールケースに巻き付けて一つとして流した。
日本との通信状況、手段	海外ローミングの eSim、等 Line 等のアプリは通常通り使用可能だが、Yahoo ニュースは利用が出来なかった。
他国チームとの国際交流の実施	他国選手とのコミュニケーションにおいては、大人があえて入らないようにした。我々が入ってしまうと、他国選手→日本人大人→選手というコミュニケーションになってしまうため、出来る限り静観する事にした。 他国選手が早々にハチマキの交換を求めてくるシーンが多く見受けられた。良い事だと思うが、船の準備のしかかり中や、出艇前に声をかけられる事が散見された。持っている選手がその場で対応していまい、いつまでたっても準備ができない、浮足立つ状況があった為、出艇前の交換などを行うことはやめさせた。事前に、選手たちに対して、お土産の交換などのコミュニケーションはホテルで行うことのように、指示を出すべきだったと反省。
持参してよかった食品、医療品等	基本の食事がパン系なので、おにぎりを喜んで食べていた。また、気温が非常に高かったため、そうめんは選手たちに人気が高かった。
次回参加者へアドバイス	<p>選手が生活リズムを崩さないためにも、はじめから大会指定の宿に泊まり、移動等のストレスを最低限に抑えるべきだった。大会公式ホテルがヨットクラブから遠い事もあり、状況がつかめていなかった事が一因だが、まずは、大会が用意しているものを中心に考え、物事をシンプルにする事でストレスが減ると思う。</p> <p>今回、大会開始前の 13 日、14 日の移動や練習については大会側とイレギュラーの対応をしなくてはならず、大会本部側からも、若干面倒に思われていたように感じる</p> <p>事前に、コーチボートをシェアする国を決めたり、相部屋になる場合にはリクエストを出すことも、他国は当たり前のように実施していたように感じた。また、計測の日程などもこちらから指示しているようだった。特に、成績の良い国は大会の最終計測まで、ギアの変更等を行い、海面、コンディションに合わせてセットUPを考えているように感じた。</p> <p>また、大会前にはプレ大会(今回はギリシャナショナル)が行われている事が多いので、出来ればそこに参加できるように段取りをする事が望ましいと思う。</p> <p>大会会場は、近くにスーパー、レストラン、ガソリンスタンド、ベーカリーや薬局もあり、不便をすることは無かった。スーパーは大きく食料品は勿論だが、パラソルなどもありコーチボート用に購入するなど大変助かった。ガソリンスタンドも近かったので、歩きでタンクを運んだが苦は無かった。レンタル自転車もアプリを登録利用したが、使い勝手が悪く、おすすめは出来ません。2 輪スクーターは使いたい場所には無く利用しませんでした。</p> <p>体調を崩した者はいなかったが、日中 40℃近い気温になるため、屋外での行動は迅速に行うこと、出来る限り体を冷やしておけるよう、もっと子供達に行動の徹底をした方が良かったと思う。</p> <p>現地の簡単な挨拶、他国の言葉を覚えておくと、万国共通で喜ばれた。</p>
JODA への要望	<p>・OP の場合、毎年選手が中学 3 年生で抜けて行ってしまいうこともあり、情報共有が不足してしまうので、本レポートを年度だけでなく、地域、国等でまとめていただけると嬉しいです。その開催場所のコンディション、スーパーの有無、タクシーの値段、宿の情報等を事前にもっと知ることができれば、また、知っている人と連携が取れれば、初めての地</p>



コーチとのミーティングで HDMI コードが役立った。
コーチ部屋にて選手・コーチで SI の読み合わせを行った。

	<p>でも少し不安が払しょくされるかと思えます。</p> <p>・キーパーソン(各国のコーチ、大会ヨットクラブ等)との継続的なコンタクトが無いため、遠征期間だけで都度、新しい関係を築いていくのは難しいと思う。他国は例年、同じコーチが連れてきている事もあり(特にヨーロッパ、南米は遠征が多い事もあるが)コーチ同士の絆が強いように感じた。</p> <p>・選手が日本代表として選手権に出場し、より高い順位を求める為の仕組みを作るべきだと思う。</p> <p>例えば、選考会出場前後に合宿で父兄から離れセーリング生活をする事(体力、英語スキル、食生活、チームビルドに適しているか)を点数化し、海外遠征をしてもパフォーマンスを落とすことなくセーリングが出来るかを考慮すべきだと強く感じた。少なくとも、海外で過ごす上で気を付けるべき言動(ワードや差別発言など)などは常識として選手が理解しておく必要があると思う。</p>  <p>海面の見える丘から。各国VHFで海上のコーチと会話していた様</p>
<p>その他</p>	<p>今回のヨーロッパチームには、日本UV普及ケア協会様よりBRISA MARINA 日焼け止めを各選手に一式、アゲイン様よりStream Trailの防水バッグ、株式会社COAST様よりHampidanのダイナーのマガラムをサポートいただき、レースに参加いたしました。選手たちは、会社訪問で大会についてプレゼンを行う機会を頂戴し、大変貴重な経験を積むことができました。8月中には結果報告をしに各社に再訪し、報告と感謝を伝えてきたいと考えております。</p> <p>メンバーの岡田家、渡辺家、實松家の皆様、遠征までの準備期間、また、大会期間中のサポート、大変感謝いたします。この4人で出来る遠征は多分これが最後になると思いますが、引き続きヨットを継続したいと思いますので、これからも未永く子供達がチームメイトとして切磋琢磨していけるよう、サポートお願いいたします。</p> <p>コーチを引き受けて下さった白石さん、お忙しい中練習を見ていただいたり、子供たちの相談に乗って頂いたり、子供達を一人前のセーラーにする事、少しでも成長させることにご尽力いただき、ありがとうございました。</p> <p>監督として本選手権に関わる事ができ、大変貴重な時間を過ごすことができました。レース会場で感じた事等、出来る限り皆さんに伝えていきたいと思えます。引き続きよろしくお願いたします。ありがとうございました。</p>

ご協力ありがとうございました

JODA 海外派遣委員会